

「第4回環境教育・環境学習推進懇話会」議事録

- 1 日 時：令和5年6月30日（金） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市役所本庁舎3階301会議室
- 3 出席者：米田副座長、桐谷構成員、下山構成員、白井構成員、高橋構成員、奈良谷構成員、林構成員、堀井構成員、宮川構成員、吉田構成員（計10名）
- 4 事務局：環境部環境政策課（佐藤課長、畔柳主査、池田主任、笠井）
- 5 傍聴者：2名

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 傍聴実施要領の改定について
- 3 議題
(1) 環境月間啓発イベントへのブース設置の検討について
- 4 報告
(1) 令和5年度教員向け環境学習講座について
- 5 各構成員からの活動報告
- 6 その他

◆ 2 傍聴実施要領の改定について

〔事務局からの説明〕

資料1参照

特段の意見等はなく、事務局案のとおり承認された。

◆ 3 議題（1）環境月間啓発イベントへのブース設置の検討について

〔事務局からの説明〕

次年度以降の環境月間啓発イベントにおける懇話会のブース設置について、方向性や内容等について検討いただきたい。

■ 米田副座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。
参加された高橋構成員いかがか。

■ 高橋構成員

環境月間啓発イベントの中心となって協力を行っている、横須賀市地球温暖化対策地域協議会のメンバーでもあるため参加させていただいた。

10年近く行っており感じるのだが、パンフレットやパネルを置くだけではお客さんは素通りしてしまうので、イベントやアクションが出来ると良いと感じている。

キャンドルホルダーづくりはグラスに絵を描いてもらうのだが、小さいお子さんは絵を

描くのが好きなので、声を掛けると参加をしてくれる。

大人はなかなか率先して参加しないので、お子さん中心に声を掛け、大人の人に話をする勧め方が良いと思う。

キャンドルホルダーは絵を描いた後、割れないように梱包し袋に入れて渡しているが、その袋の中にパンフレットや「みどりのカーテンコンテスト」(横須賀市地球温暖化対策地域協議会主催)の募集要綱を入れて渡すなどの仕掛けをしつつ啓発を行うと良いと感じる。

■米田副座長

お子さんを引き込むのは重要だと感じる。

■奈良谷構成員

遠くで拝見していたが、参加している子ども達が楽しそうなのが印象的だった。
土曜日であることや会場が良かった。

■米田副座長

会場は狭いイメージだったが、かなり広いスペースであった。

■事務局（畔柳主査）

事前にコースカ ベイサイド ストアーズの担当者とは何度か打ち合わせを行い、邪魔にならず事故がないことを考慮しつつレイアウトを工夫した。

また、会場がエスカレーターやキッズコーナーの付近だったので、横須賀市地球温暖化対策地域協議会の方が声を掛け、お子さんに興味を持って体験していただき、それをきっかけに親御さんにも来ていただき上手い動線が出来たと思う。

■米田副座長

幾つかご意見をいただいたが、来年、再来年と続いていくイベントであるので、また検討を進めていくことにする。

◆4 報告（1）令和5年度教員向け環境学習講座について

[事務局からの説明]

8月22日開催予定の令和5年度教員向け環境学習講座の概要について報告した。

■米田副座長

ただ今の事務局からの報告について、ご意見やご質問はあるか。

■事務局（池田主任）

環境教育・環境学習推進懇話会をきっかけに、総合的な学習の時間研究会とコラボレーションをし、2年目となる。この場を借りてお礼を申し上げる。

■吉田構成員

昨年度から午前環境学習講座を行い、午後は明浜小学校で講座に参加された先生と総

総合的な学習の時間研究会のメンバーで、実際に総合的な学習の時間の単元として1年間取り組みには、どのように出会わせ、課題を持たせ、学びを深めていくか単元計画を行っている。

総合的な学習の時間は、目標はあるが教科書がない学習なので、子ども達がどのように真剣に環境に向き合っていくかを具体として、先生方にこのような単元があると学びが出来ることを示すことをしている。

総合的な学習の時間研究会のメンバーにも声を掛け20人の枠をいただいたのでよろしくお願ひしたい。

総合的な学習の時間研究会や環境教育に馴染みのない先生に参加していただき、各学校に帰り自分のクラスで担任をしていただくことで裾野が広がると思うので今年度もよろしくお願ひしたい。

■事務局（佐藤課長）

市内全ての小学校4年生を対象に今年度から1日でアイクルとエコミルの両施設を見学出来るように取り組んでおり、全ての小学校から見学に来ていただいている状況である。

今年度10月から本市ではプラスチックを燃せるごみから資源に移すために、ごみの分別を変更し、分別変更の説明会「ごみトーク」を町内会に声掛けし実施している最中である。

子ども達に学びの中で、きっかけは自然環境や廃棄物でも良いので興味を持っていただければ有難いと思う。

環境教育が環境政策課に移管されたのでお互い知恵を出し合いながら利用していただきたいと考えている。

■米田副座長

「百聞は一見にしかず」と言われるように、見たり、聞いたり重要であるので進めていきたい。

事務局はいただいた意見を今後にかす活動をお願ひしたい。

■高橋構成員

アイクルの見学は、先生と子ども達が一緒に勉強し、考える一体的な学習が出来るのが良いと感じた。

コラボレーションしながら重層的に出来る進め方は良いと思う。

■事務局（佐藤課長）

海洋プラスチックごみの問題を総合的な学習の時間で取り組んでいる小学校もある。

猿島自然観察会にも参加していただいているが、猿島にも海洋プラスチックごみが流れ着いていることを知る子ども達の素朴な着眼点の一路になればと思う。

きっかけはどのような形でも良いが環境の保全などに繋がる一路になれば有難い。

■米田副座長

子どもにはネットワークがあり、何が引っ掛かるかは子どもによって変わってくるので、一つのきっかけになるように進めていただきたい。

◆5 各構成員からの活動報告

■米田副座長

日産自動車株式会社で環境に関する仕事をしている。主に工場で使っている水をきれいにし、蒸気を止めてカーボンニュートラルの活動を行っている。

大きなものとしては、車の塗装を有機系から水性塗料に変更する取り組みを進めており、少しでもきれいな水を出す、CO₂を削減する取り組みを行っている。

工場が広いので太陽光発電を付けられないか調整を進めている。

また工場が古いので隙間風の暖冷房を少なくしたいと考えているが、方法などがあつたら教えていただきたい。

■奈良谷構成員

宮城県で仕事を行っており、横須賀と行ったり来たりしている。

市内で現在は大きな活動は行っていないが、地域の子供達や私立学校の子供達と前田川の河口から上がり、アオダイショウを捕まえるのを見守ったりしている。

仕事では5年生が工場見学に来る中で、自動車工業の話に加え、環境についても話をしているが、横須賀の子供達と違う反応があるところが面白いと思っている。

宮城県は自然が豊かなので、田んぼや畔にメダカがいたりクマに鉢合わせたり自然に触れている。

■林構成員

環境カウンセラーに登録しており、プロジェクトワイルドを使ったことを数年前までは行っていたが、最近は健康とスポーツのことを半分、自然環境のことを半分の活動を行っている。

自然環境では大きく3つのことを行っている。

1つ目は、猿島のフィールドを使い猿島専門ガイドを行っており、3月からは猿島に常駐しお客さんが見えたら午前、午後にガイドをするスタイルを設けているため、週に2、3回行っている。

本来なら週に1回行けば良いのだが、コロナ禍の影響で行動が慎重な方がいるためそのような形となっている。

環境政策課から猿島自然観察会の依頼があれば主に建物を中心としたガイドを行っている。

私が一番に力を入れているのは、聴覚障害の方がいらした時に手話を使った対応が出来ればと思っている。

2つ目は、近所の子供達と西地区の自然のフィールドを使い「こどもエコクラブ」の活動を行っている。

3つ目は海の中のごみについて考える活動を行っている。

■高橋構成員

横須賀市地球温暖化対策地域協議会の活動を中心に行っている。

「キャンドルホルダーづくり」や、緑のカーテンを育て節電、省エネに繋げる目的で「緑のカーテンコンテスト」を実施している。

「挑戦！ゼロカーボンコンテスト」を市内の小、中学生を対象に夏休みに節電や省エネ、ゼロカーボン対策のコンテストを実施している。

今までは「節電コンクール」としていたが、課名が“ゼロカーボン推進課”に変更になりコンクール名も変更した。

ごみを減らす、節水、リサイクルも温暖化対策に繋がるので、幅を広げる形で、子ども達に温暖化対策、ゼロカーボンについて考えてもらいたいと思う。

子ども達の意識の中で環境は定着している感じがしており、後5年も経つと子ども達の意識も変わってくるのではないかと思う。

「環境教育・環境学習推進懇話会」で推すようなプログラムが出来ると急激に環境意識が広がると感じるので進めていきたい。

横須賀市地球温暖化対策地域協議会では、環境についての出前講習を行っており、昨年度は2回、今年度は1回実施した。

お話が出来るように、日々、新聞などを確認し温暖化対策や環境の記事を心に留めたり、メモを取ることを心掛けている。

■桐谷構成員

6月10日、11日に逗子市（逗子文化プラザ）で開催された環境イベント「ずしグリーンライフフェス」に参加したので4点紹介する。

1点目は、コスモ石油マーケティング株式会社が風の力でモーターを回す風力発電の実験を行っていた。

風力で作った再生可能エネルギーを逗子市で買って使っており、横須賀市でも行っているとのことであった。

このような情報を横須賀の中でも伝えていければ良いと思う。

2点目は、「逗子の昆虫500展」を開催しており、標本がずらっと並んでおり見応えがあった。

夏休みに虫を採取するのが楽しみで仕方がなかった年代にとっては、見ていてたまらなかった。

内船構成員がファーストオーサーで出されたペーパー「三浦半島で記録された蝶とその動態」が置いてあり、アカデミックで非常に興味を引く内容で良いと思った。

3点目は、本日も「海洋プラスチックごみ」の話が出ていたが、桜美林大学のデザイン専修の学生が、自分たちがやっていることをより良く理解するため、例えば「海洋プラスチックごみ」を表現するために、お皿の上にクレジットカードサイズの5gのテリーヌのような物が乗せられた作品が展示されていた。

5gとは、魚などを通して人が一日に体に取り込んでいるプラスチックごみの量であるが、このような表現をしてお面白かった。

8市連携で海洋プラスチックごみの削減のキャンペーンを行っているようで、この日は逗子市で開催されていたが、横須賀市でも開催したのか。

■事務局（佐藤課長）

今、エコミルで展示を行っている。

各小学校の子ども達が見学に来る際に見ていただく形にしている。

■桐谷構成員

一見、「これは何？」と思うところから入れるので、子どもや大人も興味を引き、環境の

問題を考えることが出来て良いと思った。

4点目は、屋外で電気自動車を使いライブを行っていた。

横須賀でも参考になれば良いと思う。

■吉田構成員

8月22日開催予定の「教員向け環境学習講座」で先生達の学びが少しでも多くなるように当日のスケジュールを含めてこれから詰めていく。

環境政策課と連携し進めていくのでよろしくお願ひしたい。

野比に住んでおり自然が多いと感じているが、先日5歳の子どもと武山を登り浅間神社の方に降りたが、自然が多く険しい道に子どもが物凄くハマった。

自然の中で怪我はつきものかもしれないが、色々なものを見たり、感じたり、肌で、五感で感じるような経験が出来る横須賀の土地は恵まれていると感じた。

その後、小網代の森へ行ったが、近くに自然に触れ合える公園があるので大切に残していきたい。

■堀井構成員

教育指導課では学校と関わりながら子ども達に環境教育について授業へのサポート、指導、助言などを行っている。

学校に様々な環境に関わる授業があることを周知している。

理科の指導主事を行っているが、様々な学校に関わる中で、理科の学習の中で環境がどのように扱われているのか、授業を充実させることが一番だと思っている。

今日、田浦小学校の授業に参加したが、田浦小学校では身近な自然を扱い、校庭にいる昆虫の観察を通して、どのように自然界に繋がっているのかを考えるような授業を行っている。

そこには、自然・人文博物館の内船構成員にも関わっていただき子ども達の疑問に答えていただいている。

このような取り組みをどんどん広げていきたいと思っている。

直接の担当ではないが、総合的な学習の時間についても各学校から報告等が出ている。

吉田構成員からもあったが、多くの学校が環境についての取り組みをされているので、学びが充実するようにサポートしていきたいと考えている。

理科、環境に関わる場所として、年間を通じて色々なイベントを行っている。

代表的なものの一つに「よこすか子ども発明展」を企画しており、日常的にある様々な発明を夏休みに取り組んだものを集めて博物館に展示しているが、最近はエコな視点のものが増えている印象を受けている。

同じようなイベントで「よこすか子ども科学賞」があり、子ども達の自由研究を横須賀の小学校から集め展示している。

年々増えており、審査をするのが大変な量が集まっている状況である。

入賞したものについては、令和6年1月20日、21日に開催予定の「みんなの理科フェスティバル」で様々な理科、環境に関するものを展示し、子ども達の自由研究の作品や発明したものを集めた交流会を考えている。

このような子ども達が参加出来るようなイベントを作りながら環境教育について促していきたい。

今年から正式に始まったものとして、JAMSTECとの関わりの中で、青森県むつ市、沖

縄島の学校と関わりながら環境教育の交流授業を行っている。

横須賀市立逸見小学校が取り組んでおり、今後「横須賀の海」について考えていく授業の計画をしている。

2年間の計画で取り組んでいるので、また報告したい。

■白井構成員

教育研究所では主に先生方の研修を行っているが、理科センターが前身であり、理科の研修をメインで作っている。

先生方に来ていただく研修なので夏休みに中心にこれから受けていただく。

内船構成員を含め、自然・人文博物館の学芸員の方々にも講師をお願いした昆虫、植物、地層を研修で取り扱っている。

その他にも理科に関する研修をいくつか計画しているので、先生方の環境への関心、知識を深めてもらう取り組みをしている。

子ども向けの学習会「土曜科学教室」年間8～9回開催を予定している。

また、夏休みに小学生対象の「サイエンスセミナー」を教育研究所で予定している。

合わせて10回、それぞれ定員が40名なので、年間400名の子ども達への理科への関心を深める学習を行っている。

第1回目の「土曜科学教室」は6月に自然・人文博物館を会場にし、40名の小学校3年生、4年生を対象に行った。

子ども達が目をキラキラさせながら、昆虫採集を行ったり、化石や植物の葉脈標本を作成した。

7月8日に第2回目「土曜科学教室」を教育研究所で開催する。

■下山構成員

子ども達が小学校に行ったときに、このような活動をするのかと思いを聞かせていただいた。

保育園には0歳から就学前までの子ども達がいるが、遊びながら学んでいる感覚がある。「よこすか環境教室」では、保育士が話すときとは違い知識がある方の話を聞く時は、経験している姿があり、そこから発展していると感じる。

ごみを捨てる1つにとっても、ごみ箱に絵を描いたりすると、1歳代の子どもでも分別して捨てているので、小さいうちからの経験が繋がっていくと良いと思いながら過ごしている。

ウォータースタンドは午前中に一度水を捨てて新しい水を入れ、常温だから飲みやすいのかよく利用している。

キエーロは残食を土に混ぜて利用を続けている。

地域の保育園により色々な環境があるが、草むらが少ない保育園では四つ葉の種を蒔き草むら化させており、子ども達は名前も分からない小さな生き物を観察している姿が微笑ましい。

子ども達は水が大好きで1年中水で遊んでおり、水は限りのあるものではないが好きだけ使っていることが課題でもある。

■宮川構成員

総合的な学習の時間で「学区の自然環境体験事業」を行っており、小学校の総合的な学習の時間に利用していただいている。昨年からは市内の小中学校46校すべてにおいて4年間で実施するために、受け入れ学校数を増やした。

非常に盛況であり、昨年度も今年度も定数を上回る応募があり、今年度は鶴久保小学校でも開催している。

授業の内容は学校の希望に合わせてオーダーメイドで実施しており、樹林があれば行ったり、昨年度は大津小学校でコンポストを作ったりした。

NPO法人に委託しており、講師の天白氏が市議会議員になり懸念している学校もあるため、委託先のNPOから別の講師を派遣していただいている。

1つの学校に最低2回、追加の授業があれば2回行い、定数12校、全48回実施を予定している。

課題は講師が不足しているので来年度以降は他の講師にも声を掛けて行いたい。

他の事業は昨年度から「自然観察会」を発展させ、「横須賀いきもの調査隊」と名前を変え、実施している。

自然観察会に参加して、「楽しかった」で終わるのではなく、その後観察会で得たものを自分で探し、調査をしていただく形とした。

「自然観察会」は年齢層が高かったが、「横須賀いきもの調査隊」と名前を変えたところ親子連れが増えた。

昨年度は「調査をしてください。」と口頭で言っていたが、なかなか自分達での調査には至らなかったため、今年度は調査票を配布し見つけた生き物を書いてもらうことにした。

観察会の講師の自然・人文博物館の内船構成員と山本学芸員に注目種を決めていただき調査票をお送りした。

強制ではないとしたため、なかなか調査票が集まらなかったが締め切り間近になり5、6名から送られてきた。

自然・人文博物館で7月22日から特別展示「みどりの不思議ー多様な植物の世界ー」が始まるが、調査票を壁に貼る予定で調査に協力してくれた方にはプレゼントをしようと計画している。

昨年度から環境省が生物多様性を保全する場を増やそうと「自然共生サイト」が始まり、「野比かがみ田緑地」を申請し、昨年度は認定相当になり今年度は認定を目指している。

野比かがみ田緑地での自然観察会は毎回好評である。

先程の話を聞き、子ども達はただ話を聞くだけでなく、自分達で実際に捕まえるなど、体験したことが記憶に残り興味を示すと感じたので、アイクルやエコミルの見学も体験型にするとう記憶に残るのでないかと感じた。

■奈良谷構成員

先日、NHK BSの番組ヒューマニエンス「“虫” 地球のもうひとつの主人公」に内船構成員が出演されていたが、ポテンシャルが高くすごい人だと感じた。

宮川構成員の話にもあったが、自然環境の教育の場はあるが、大楠地域を見ると秋谷と芦名の海岸に以前は大楠小学校の子ども達を連れて環境教育に行っていたが、安全確保のために行けなくなってしまった。

行政として教育の場と仕組みは考えていただいているが、現場が奪われている。

海の中の海藻が無くなるなど、自然の力もあるが、良い先生がおり、良い仕組みもあるので、行政の審査で残していただきたい。

■事務局（畔柳主査）

課長は市民向けごみの分別説明会のため、途中で退席させていただいた。

分別説明会は土日問わず手分けをし、約 500 か所行っているため、横須賀市内にお住まいであればご用命いただきたい。

今年度組織改正があり、資源循環とゼロカーボンの部分の課が統合された。

普及啓発では「クリーンよこすか市民の会」を運営する事務局があり、ごみを捨てないようにする啓発と、捨てられてしまったごみを拾う美化に関する二つの側面を持つ係が誕生した。

他には、アイクル、エコミルの見学や、子どもごみ教室を開催している。

小学校にパッカー車を運び、パッカー車の仕組み、危険なところ、すごいところ、価格などを説明しながら子ども達に見て、触ってもらっている。

また、危険な物を入れると火災が起こる等の事例を話し、ごみの分別の必要性と繋がりを説明しながら学んでもらいたいと思い開催している。

また、座学ではごみの分別体験などを行い、全部で約 2 時間のプログラムとなっている。

大人向けには町内会単位での申し込みをしていただき、アイクル、エコミル、三浦市の最終処分場を体験しながら学んでいただく啓発の事業を行っている。

海洋プラスチックごみ問題については、出してしまったごみについては拾うしかないが、出さないようにする観点で、親子で海でプラスチックごみを拾い、アートを作り楽しみながら学ぶ講座を夏休みに開催する予定である。

ごみの側面が強くなっているが、「なぜごみを減らさなければいけないのか」、「減らすことによりCO₂が減り温暖化対策になる」、「ごみが多いと燃やすのにお金がかかる」などたくさん理由を説明することで心に刺さると思いながら話をしている。

子どもの頃の経験はすごく大事であるとの皆さんの意見はその通りだと思うので、どのように伝えたら良いのかなどをこの会で相談させていただき進めていきたい。

◆ 6 その他 座長の選任について

「環境教育・環境学習推進懇話会設置要綱」第 4 条第 1 項の規定に基づき、座長を互選し、選任された。

座長：桐谷 範彦 氏（環境教育指導者）

◆ 6 その他 事務局から事務連絡

■事務局（畔柳主査）

事務連絡が 3 点ある。

1 点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば、7 月 7 日（金）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2 点目は、第 5 回環境教育・環境学習推進懇話会の開催は令和 5 年 10 月を予定している。8 月頃に日程調整を行う予定である。

3 点目は、北口駐車場駐車券の処理について。

■米田副座長

以上をもって、第 4 回環境教育・環境学習推進懇話会を終了する。